

1号 表紙, 序, 例言, 目次, 奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/33329

金沢大学考古学研究会活動報告 第1号

旭台遺跡

—能美丘陵の野外調査—

1975.3

金沢大学考古学研究会

序

金沢大学考古学研究会は、69年より能美地区を遺跡分布調査地区に設定している。当初は辰口町・故井上鋭夫氏（前クラブ顧問）の援助・指導のもとで調査が開始されたが、72年から自主調査に切りかえられ、現在も続行中である。当地区を対象としているのは、既往の分布調査が不徹底であり、相当数の未知の遺跡が見込まれるにもかかわらず、異常なまでに「開発」が集中し、既知・未知を問わず多くの遺跡が危機にさらされ、現実に破壊される遺跡があとをたないからである。したがって、現地での活動は、未知の遺跡を発見することおよび既知の遺跡の現状確認を中心とし、地域住民と積極的に接触をはかり、埋蔵文化財に理解と関心を得ることをおもな目的としている。

旭台遺跡は、72年5月の現地踏査の際、ブルドーザーによって包含層が攪乱され、多量の土器・石器が散乱した状態で発見された遺跡である。発見直後、県教育委員会文化室に連絡したが、①遺跡の範囲が小さい ②遺物の量が多くない ③ほとんど削平されている ④これ以上現状を変える気配はない、という理由で発掘調査もなされないまま放置され現在に至っている。

本書は、存在しか明らかにされていない旭台遺跡の採集資料の紹介を中心に、74年度までの遺跡分布調査の一応の成果をまとめ、さらに73年1月～75年1月の住民・学生を対象としたアンケート調査の結果を収録した自主報告書である。

例 言

1. 本書の編集・執筆は、すべて現在（74年度）の会員があたった。
2. 資料の整理は全員がおこない、本文作成にあたっては原案を分担執筆したのち、全員の協議により成稿した。

目 次

1章 能美丘陵の位置と分布調査の成果.....	1
2章 旭 台 遺 跡.....	4
3章 考古学から見た能美丘陵の歴史.....	13
4章 アンケート調査結果と考察.....	16
5章 私たちと遺跡保存問題.....	23

金沢大学考古学研究会活動報告
第1号

発行所 金沢大学考古学研究会

発行日 昭和50年3月31日

印刷所 株式会社橋本碓文堂
金沢市大手町2番35号